

PROFILE

美津島 大

山口大学大学院医学研究科システム神経科学分野
(旧第2生理学) 教授



2012年9月1日付けで山口大学大学院医学研究科システム神経科学分野の教授を担当させて頂くことになりました。私はJR大阪駅の隣、塚本駅の下町で生まれ育ちました。子供の頃の日本は70年代の高度成長期、決して良い環境とはいえず、その反動からか、自然には強いあこがれを持っておりました。

大学では獣医学科に進学し、郊外の牧場実習もかなり楽しかったのですが、3年の生理学実習では特に強いインパクトを受けました。進路を決めるに当たり、将来は脳の研究に携わりたい、という強い思いから、獣医生理学教室の門戸を叩き、4年から6年まで研究に参加させて頂くことができました。研究室では、やる気のある先輩方と日々自由闊達な議論を進めながら研究を進めましたので、この頃に自分で研究戦略を考えて、遂行するという、研究者としてとても重要な素地を得ることができました。偶然かもしれませんが、横浜市大では、多くの基礎教授が学部学生の時代から研究室に出入りし、研究に没頭していたという経験を持っており、深い共感を得ることができました。また、山口大学の医学部に来て素晴らしいと思いましたのは、2年生から放課後に open science club を選択できるということです。全国的に基礎を志望する医学部生が減っている中、このプログラムは、将来の医学を引っ張る Research Mind を育てる、とても重要な取り組みであると感じております。

卒業後、大学院在学中にウィスコンシン大学の霊長類研究所に2年半留学する機会を頂き、帰国後は横浜市立大学医学部生理学教室に助手として

採用されました。幸い横浜市大のマッチ率は例年かなり高いのですが、それでも医学部出身の大学院生が基礎教室に入ることは滅多にありませんでした。そんな状況の中、強い志を持って大学院に入学し、研究を一緒に推進してくれたのは他学部卒の大学院生達です。理・工・農学部だけでなく、教育学部や心理学科を卒業した大学院生の中にも、高い研究志向を持って、医学部で研究したいと感じている人がいます。もし、横浜市大に医学部修士課程が無く、他学部の大学院生がいなかったら、と想像すると、大学の基礎研究実績はもっと貧弱だったでしょう。日本にはインパクトの高い、魅力ある生理系研究室が沢山あると思います。志のある他学部の人たちを取り込んでいけば、人材の流動化をもたらし、生理学全体の活性化に繋がるのではないかと感じました。

私を育てて下さいました先生方に報いるためにも、教授として一人でも多く、生理学を牽引できる人材を輩出できればと考えております。初心を忘れず頑張っ参りますので、今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

略歴

- 昭和 58 年 高槻高等学校卒業
- 平成 2 年 東京大学獣医学科卒業・獣医師
- 平成 2 年 Wisconsin 大学霊長類研究所 Research Associate
- 平成 5 年 Wisconsin 大学霊長類研究所 Honorary Fellow
- 平成 6 年 横浜市立大学医学部第2生理学助手

平成 14 年 横浜市立大学医学部第 2 生理学
講師

平成 17 年 横浜市立大学医学部第 2 生理学
准教授

平成 19 年 横浜市立大学医学部第 2 生理学
准教授

平成 24 年 山口大学医学部システム神経科学
(旧第 2 生理学) 教授